

ガキがガキ産む

小中学校の教師には、即座に理解できただろう。

2016年7月、ある男が覚醒剤所持・使用で逮捕された。驚くべし、1歳の子供から覚醒剤反応が陽性になったという。

このような例は山ほどある。幼児虐待は言うに及ばず、殺害にまで至っている。・・・しかも、その罪がきわめて軽い。「反省している」など、何を言っているんだ。抵抗できない乳幼児に、サディスティックに虐待しておいて今更。こんな「反省のフリ」を見抜けないなど、司法の崩壊だ。反省のフリなどサルでもできる。本来、裁判は、「反省の有無」を調べるところにあらず、「その罪に対する罰を決定する場」ではないか。しかも、世間知らずの裁判長という若造が、偉そうに教を垂れる場ではない。勘違いしている。

両親が茶髪に染めている。このことだけでは、個人の自由の範囲であろう。(バカにはされるだろうが)問題は、小学校に通う子供まで茶髪に染めていることで、子供は親の着せ替え人形ではない。これでまともな人格形成ができるのだろうか。

しばらく前には、両親がパチンコに行きたいから、子供を水風呂に入れて、危うく死亡するところだった。

10数年前になるだろうか。一家そろってパチンコに興じ、車の中の幼児が熱中症で死んでいる事件が引きも切らなかった。あれほど新聞やテレビで報道している。・・・そんなニュースを見ることさえしないでパチンコに行く。子供が行方不明になったこともある。今になって「さがしてくれ」とはあつかましい。自分たちの行為を恥じる気もないのか。・・・今でも、うちの近所のパチンコ店で、夜、子供たちが遊びに興じている。

学校でモンスター・ペアレント(気狂い保護者とでも訳すか。無能・自己主張だけで、我が子さえ得をすればいいという親)が問題になる。教育委員会も腰が据わっていないから、モンスターの言いなりになる。・・・このあたりの特徴のひとつは、ガキの言う(主張する)ことをすべて信用することである。知性はなくても、雰囲気を読むのに長けているから「事実を述べると自分に不利になる」ことくらいは自覚できる。そのガキの言うことを同じレベルのガキ(保護者)は、事実かどうか調べるどころか、一緒になって攻撃してくる。かくしてガキの主張が通じてしまう。恐ろしい世の中ではある。

つい最近、役者と称する親子が、TVに頻繁にでてくる。騒々しいだけなのだが、「そんな役が与えられている」というが、バラエティでも同じようなものだから、持って生まれた性格だろう。週刊誌によれば、学校のルールさえ遵守できないバカだったが、親は、それを叱るどころかモンスター・ペアレントになって、学校に怒鳴り込んだという。ガキの躰けどころか、是非善悪の判断さえ成人になっても理解できないように育てた。一般社会人としての常識さえ知らずに、異常な世界である芸能界に入る。ビジネスホテルの従業員の女性に暴行しておいて、そのホテルから逃亡するどころか、熟睡していた。これだけで、「こいつはアホやな！」親がでてきても謝罪も何もあったものではない。損害賠償だけで優に億を超えるだろう。社会の片隅で親子2人、ひっそりと暮らしていければいいほうだ。乞食になってもおかしくない。親の曰く、「バカだと思っていたが、ここまでとは……」それを育てたのはお前じゃないか。そのバカを是正しようとしなくて、そのガキを学校に怒鳴り込んで庇ってきたのはだれか。親を吊し上げるのはどうかと思う、という意見もあるが、一心同体でお互いに助け合って生活してきたのだからやむを得ないのじゃないですか。きちんと躰けをしてこなかったのは自分じゃないですか。ガキの持って生まれた性癖が60%、環境因子が40%としても、その罪は親にあるだろうが。

電車の中で母娘が、4人分くらいの座席を占領して、なにやら菓子を食べている。母親は40代、娘は20歳になるかどうかくらいの年齢である。親が躰けなかったら、どうしようもない。親が率先して恥を満天下に曝している。ガキが全盛だな。

日本の教育は、順境にあるか富にしか教育の意味を見いだせない親子を作ってきた。(曾野綾子氏) 飢えも不潔も貧困も運命に翻弄されることも知らなくなった。**子供の躰けは家庭がすることだ、**ということさえ忘れ、権利のみを主張し、義務は放ったらかしにしてきた。日本人の美德が失われていく。日教組が諸悪の根源であるが、まともに家庭が躰ければまだ間に合うだろうか？　つまりガキがガキを教え、躰けるといふありえない状況ではある。期待せずに待ちますか。

貧乏だからダメとか両親の仲が悪いからグレたなど、甘え以外のなにものでもない。言われたことだけをして、子供が自分で考えなくなってしまった。日本では、子供は「大事にされて」はたらくことをしないが、後進国では子供は貴重な働き手であるし、働くことは義務でもある。そうでなければ、その日の食事さえ事欠くことになる。

いじめの問題ひとつとっても、「いじめ」はなくなる。学校だけではなく、社会にでてからも、いじめはどこにでもある。そういう例はいくらでもあるし、第一「いじめ」る側からみれば面白いし楽しいのである。いじめを受けている人、あるいは子供はそれに耐えうる力を育てなくてはならない。(自殺なんかには逃げるくらいなら、なぜ、首謀者を道連れにしないか！)

誤解を恐れずに言えば、幼児はともかく、子供にいわゆる人権なんかいない。ひとりで生きていくしかないのだ。飽食の時代、子供は贅沢に慣れて、「食べたくない。」といえ、親が「お願いだから食べてちょうだい」などという。バカなことを！ 子供なんかに対し、「食べなければ食べるな！」といえ、いはいし、ほかになければ食べるものである。そういうふうになんか甘やかしたり、子供に敬語を使う芸人までいる。・・・馬鹿丸出し。

小学校の父親参観で、「先生、子供にもっと親の言うことを聞くように言ってくれませんか」といったバカな父親の話であきれていると、今宮高校でまったく同じ状況で同じことを言った父親がいた、と聞いた。ダメだ、こりゃ！

2016.08.30.